

事業報告書

2025 年度

自 2025 年 4 月 1 日
至 2026 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人

アーユス仏教国際協力ネットワーク



2025年度を振り返って

困難な時代に、 命を取りこぼさないための歩み

2025年度は、ミャンマーの大地震への緊急救援から始まりました。この一年は、紛争、災害、そして国内の差別の問題に向き合いながら、「支援を必要とする人々へ、いかに確実に光を届けるか」を問い続けた年でした。

1. ミャンマー：

軍を介さない「直接届く支援」の追求

2021年のクーデター以降、アーユスは「#ミャンマー軍の資金源を断て」キャンペーンを通じ、日本の公的資金が軍を利さないように働きかけました。この活動で培ったネットワークと知見が、2025年3月のミャンマー中部大地震において大きな力となりました。混乱に乗じた軍の搾取を防ぎ、被災者へ直接支援を届ける3団体に協力。そしてセミナーを通じて、現場の困難な状況を会員の皆様と共有できたことは、NGOとしての専門性と倫理観を再確認する貴重な機会となりました。

2. 平和の継承：

戦後80年、過去から未来への決意

戦後80年という節目の年、私たちはアジア・太平洋戦争の教訓を次世代へつなぐ取り組みに着目し、二度のセミナーを開催しました。「NPO法人平和のための戦争メモリアルセンター」の活動から戦争の経験や教訓を継承することの大切さを学び、また仏教者の平和活動の歩みを紐解く中で、宗教者の社会貢献における可能性と限界を深く語り合いました。今なお終わらぬ各地の紛争に対し、現地での支援活動を進めるNGOと共に「今起きていること」を伝え続けることが、アーユスの果たすべき重要な役割であると改めて決意を固めました。

3. 共生社会への挑戦：

日本国内の排外主義に向き合う

2025年は、日本国内で外国にルーツがある方々に対する視線が厳しさを増した一年でもありました。「不法滞在者ゼロプラン」の開始に伴い、滞在資格を持たない人々が強制退去の不安に晒される中、私たちは外国人支援団体と連携し、計5回のオンラインセミナーや対面イベントを開催しました。なかでも多文化共生を実践する仏教者とのトーク

イベントにおいては、単に知識を得るだけでなく、「これからの日本社会をどう形作るか」を皆様と共に考えることができ、多文化共生を実現するための確かな一歩となりました。

未来へつなぐ組織のあり方： 基盤強化への誓い

昨年度、NGOからの資金援助の要請にすべてお応えすることができなかった事実は、私たちの大きな課題として残っています。紛争、災害、差別。止むことのない人道上の危機に対し、アーユスがより強固な支えとなるためには、組織自体の体力を高めることが急務です。

役員・事務局での議論を重ね、私たちは以下の指針を定めました。

- **着実な実行：**遠い理想を掲げるだけでなく、年次計画に基づき「今できること」を確実に積み上げ、課題を解決します。
- **財政基盤の強化：**現在の活動の質をさらに高めることで、共感の輪（協力者）を広げることに専念します。
- **新体制の構築：**職員の交代に伴い、事業分担を見直しました。より効果的なファンドレイジング（資金調達）体制を整え、支援の最大化を図ります。

最後に

アーユスの使命は、社会の隅々に追いやられた人々や、光の当たらない場所に光を当てることです。一人でも多くの命を取りこぼさないために、まずは私たち自身が強く、信頼される組織へと成長してまいります。皆様からご預かりした大切な「志」は、必ず現地の必要としている人々へ届けます。今後とも、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

【中期方針】(2022-2025)

1. 社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力NGOをめず。

●2025年度方針

仏教者・NGO・市民をつなぐハブとしての実績の周知を図り、アーユスが相談先として認知されるよう努めます。国内外で自然災害や紛争が起きた時は、パートナー団体の活動をサポートすることを優先しつつ、支援を受け入れる窓口としても引き続き活動します。また備災防災の視点も含めて、NGOと寺院がそれぞれの知恵や資源を活用しあえる取り組みを実施します。

●2025年度報告

寺院関係からは物の送り先や「講師依頼」への依頼／相談、NGOからは資金協力やイベント等の開催への協力についての相談が多く寄せられた。中でも自然災害や紛争時の緊急救援についての時局対応支援への相談は、予算を上回る相談があり、応じられないケースが複数回あったのが課題として残された。

2. 不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光が当たっていない人たちや課題に光を当てている活動や、活動している人たちを応援する。

●2025年度方針

アーユスのNGO支援事業は2024年度と同様に進め、アーユスがめざす理念や方向性がNGOと共有されるよう努めます。また支援の成果などがわかるよう報告会を開催し、支援者への報告の仕方を見直します。

またセミナーやイベント開催などを通じて、少しでも多くの人に光が当たるよう取り組みます。

●2025年度報告

「NGO 支援事業」は計画通りに実施された。「ソーシャルチェンジ支援」も「『街の灯』支援」も事業支援であるため、小規模な団体の申請が以前より増えている。

また「時局対応支援」は、ミャンマー中部大地震への対応だけでなく、2024 年度以前から継続している支援があり、現場で活動している NGO と協議しながら進めた。

ガザ危機や東アジアの平和構築については NGO のネットワークに参加し、情報発信にも務め

た。

3. アーユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

●2025年度方針

2024 年度に引き続き、オンラインや対面でのセミナーやイベント、ウェブなどの媒体を活用した情報発信、交流を行います。

- ① 時局に応じた課題を取り上げ、現場に近い人たちや研究者などの視点を織り交ぜながら、小規模でも意義のある活動につながるよう働きかける。
- ② メディア的にも注目が集まりづらくなった課題で、特にアーユスがこれまで関わったものに光を当てる。
- ③ 上記のような課題を生み出す原因や社会の仕組みについてフォーカスし、改善に向けた取り組みを知り私たち自身の暮らしを振り返る機会を作る。

●2025年度報告

現在協力している、もしくはこれまで協力してきた NGO の活動から学ぶ場をもつ一方で、仏教系 NGO の強みをもって、仏教者の知見や経験を交えて議論し学べる場を開催した。大半がオンライン上での活動となったが、対面でのセミナーを3回開催し、支援者向けには、「半期報告書」を年2回、「国際協力の寺」を年1回発行。また寄付礼状に最新の活動報告を同封した。

4. より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アーユスの活動資金の安定化を図る。

●2025年度方針

アーユスへの協力方法を明確に提示し、多様な方法でアーユスに協力してもらえよう働きかけます。セミナーなどの企画の際に、情報提供をするだけでなく支援を求めることを怠らないことで支援者を獲得するようにします。

外部のリソースパーソンとの協力のもと、お寺向けに社会貢献の意義とその方法としてのアーユスをアピールする活動を実施します。

●2025年度報告

財政基盤の安定化は、前理事長が亡くなった後の最優先課題であったので、予算の縮小を行い、寄付収入

額の増額を目ざしているが、2023 年度からは単年度決算は赤字が続いている。広報については、担当者を中心に改善を進めているが、積極的ないわゆる営業的な働きかけが不足していた。

一方で、外部リソースパーソンとの企画をおこなったことで、これまで直接的なご縁を結べなかった人たちとの接点が生まれてきている。クラウドファンディングでは、過去最高の寄付金収入となった。

5. 次世代の仏教者や市民がアーユスの担い手となる仕組みをつくる。

●2025年度方針

より有機的に事業・組織運営ができるよう事務局内の体制を見直し、また外部のリソースの活用も積極的に行います。今後の事業と組織の方向性

を定める議論を役員とも重ねて、2026 年度からの中期方針を作り、次世代への継承も具体的に考えます。

●2025年度報告

アーユスの今後の方針について議論をするワークショップを役員と行った結果、現在の方向性を大きく変える必要はなく、現行の事業を継続するための資金獲得に取り組むことを優先課題とすると定めた。それに伴い、支援者訪問をはじめとするアクションプランを立て行動を開始している。

インターンシップなどは具体化できなかった。一方でこれまでアーユスと縁が無くとも社会貢献に関心を示す宗教者や、新たに資金協力が始まったNGOなどとの接点が増えている。

1. 国際協力等をう NGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO支援事業）

2025 年度支援先一覧

	1 年目	2 年目	3 年目
NGO ソーシャル チェンジ支援	日韓国正常化 60 年と日韓ミライ世代による東アジア平和構築 - 日韓青少年の交流及び国連ジュネーブ人権理事会での平和活動アピール（新時代ピースアカデミー）	紙製品を取り扱う日本企業に対する調達方針の策定と人権 DD の実施に向けた働きかけ（熱帯林行動ネットワーク）	
街の灯 支援	トルコに住むシリア難民向け補習校の質の強化 一生きる力を身につける（Piece of Syria） 戦後 80 年 平和な未来のために今 知る 考える 動く 伝える（平和のための戦争メモリアルセンター）	レバノン山間部の難民キャンプにおける脆弱な子どもたちへの学習支援（パレスチナ子どものキャンペーン） 高校生奨学金プロジェクトー私たちはあなたを見捨てない（反貧困ネットワーク）	非正規滞在家族の正規化に向けた取り組みおよび生活支援事業（ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY） グアテマラ農村部での子どものための土曜学級（日本ラテンアメリカ協力ネットワーク）
時局対応支援	ーブルキナファソ・コングシ地域における避難民支援（緑のサヘル） ー原発回帰を止める活動（FoE Japan） ーカンボジア・タイ国境地域避難民に対する緊急物資配布事業（シェア＝国際保健協力市民の会） 【指定】 ーウクライナ支援（チェルノブイリ救援・中部） ー能登半島地震（パルシック、「人形劇団むすび座がやってくる」実行委員会） ーパレスチナ・ガザ地区（日本国際ボランティアセンター） ーミャンマー中部地震（PHD 協会、日本ビルマ救援センター、パルシックに協力）		

公募型の事業「NGO ソーシャルチェンジ支援」と『街の灯』支援は説明会を開催し、滞りなく募集と選考を行い、2026 年度からの協力団体を決

定。一方で、2024 年度で支援が終了した事業についてはオンラインで報告会を開催し、事業の成果と課題について理解を深めた。

申請書や報告書のフォーマットも、申請者が事業を組み立てやすいように、かつアユスも評価しやすいように随時見直しをはかった。また選考後の講評の発表を、『街の灯』支援について行い、このプロセスを通じて、アユスが「NGO 支援事業」を通じて NGO と共に解決したい課題や方法をより明確に示せるようになった。

一方で、世界各地での紛争・内戦に加えて自然災害も多発し、アユスへの資金要請に全て応えられなかったことは課題として残されている。

1) NGO ソーシャルチェンジ支援

▼2025 年度重点目標

- ・本事業の周知と認知度の向上を図る
- ・協力事業の成果報告を行う。

▼報告

小規模の団体であっても、社会や地域をより暮らしやすいところに変えたいという願いを形にできるよう、「ソーシャルチェンジ支援」を開始して2年目となるが、アユスの目的も含めてより広く知ってもらえるよう努めている。

アユスの中でもソーシャルチェンジ支援事業が求める事業像をより明確にするために、専門委員の集いを、アユスのソーシャルチェンジ支援がめざす変革とは何かを考える場にした。

2) 『街の灯』支援

▼2025 年度重点目標

- ・2026 年度の募集に向けた本支援事業の改善や見直しを進める。
- ・3ヶ年の変化がわかるように申請書を改定する。

▼報告

2025 年3月で協力が終了した、アジア・コミュニティセンター21 (ACC21) による「日韓みらい若者支援事業」と福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN) による「ふくしま移民女性エンパワメント・プロジェクト」の報告会を5月に開催。ACC21 は、参加者の半数以上が若者となり、共に学ぶ過程で、「在外被曝者」の問題等、日韓の間に横たわる課題の中でも光があたらないところへの関心が広がり、活動を発展させることができた。EIWAN は東日本大震災を契機に互助が進んだ移民女性が抱える課題と彼女たち自身による取り組みに光を当てて支えてきたことで、これからも日本社会で生き続ける女性たちが次のステップへと進むようエンパワメントした。

その他、4つの事業を継続支援した。Piece of Syria の「トルコに住むシリア難民向け補習校の室の強化—生きる力を身につける」はシリアのアサド政権崩壊に伴い難民の帰還が進んだこととトルコ内で難民支援

活動への制限が厳しくなったため、シリアに戻った元難民への支援に切り替わった。

3) 時局対応支援

▼2025 年度重点目標

- ・寄付金を増やす。
- ・アユスへの要請や支援申請があった場合、「国内災害支援規程」に基づいた対応を行う。

▼報告

FoE Japan による『原発再稼働への対応』は、新潟県の柏崎刈羽原発を中心に進む再稼働の流れと、世界銀行やアジア開発銀行が着手した原発支援方針に国際的な圧力をかけ、原発建設への融資・支援を阻止しようとした。緑のサヘルによる『ブルキナファソ・コングシ地域における避難民支援』は、西アフリカのブルキナファソで2015 年来続く武装勢力の襲撃によって発生した国内避難民に食料と衣類を配布した。

また、2025 年3月28日に起きた「ミャンマー中部大地震」については、2025 年度に入ってから緊急募金を呼びかけた。軍の支配によって支援が行き渡らない状況が報告されるなか、それまでの現地との関わりを生かして直接届く支援活動に努めた3団体(日本ビルマ救援センター (BRCJ)、バルシック、PHD 協会)による事業に協力した。

その他ウクライナ、パレスチナガザ地区、能登半島については、指定寄付の繰越金を活用して、4ページに記載されている通りの事業に資金協力を行った。

カンボジア・タイ国境紛争により発生したカンボジアでの国内避難民に向けて、緊急救援への資金協力の相談があったが、この件については寄付を個別に集めることとし、協力金を小額に(30万円)することでシェア＝国際保健協力市民の会の取り組みに協力した。

紛争や災害時に、迅速に動くための体制がこれまで以上に必要。そのための資金力、行動原則などを整えることを次年度の課題とした。

なお、ミャンマーについては2021 年度末以来引き続き「#ミャンマー軍の資金源を断て」キャンペーンに参加して、日本の公的資金がミャンマー軍を利さないことと、2025 年12月から2026 年1月にかけて行われた総選挙の結果を日本政府が認めないよう働きかけた。

4) アユス賞

日本の国際協力 NGO 活動で多大な功績のあった NGO 関係者に NGO 大賞(茂田賞)、今後の国際協力 NGO 界を支えていくことが期待される有望な人材に対して NGO 新人賞、仏教の縁に基づいた国際協力や地域作りを志しアユスの活動に対する多大な貢献や協力があった寺院もしくは個人に対して特別功労賞を授与する。

▼報告

【NGO大賞】沢田貴志さん（シェア＝国際保健協力市民の会理事、港町診療所医師）

【特別功労賞】今村公保さん（日本山妙法寺僧侶、元アーユス臨時職員）

【NGO新人賞】

池田織枝さん（ジェン）、大橋怜史さん（ボランティアセンター）、下島舞佳さん（シャプラニール市民に

よる海外協力の会）、水原修平さん（IKUNO・多文化ふらっと）

クラウドファンディングで想定以上に集まり、受賞者数を3人のところ4人に変更。

【授賞式】2026年3月11日、会場：光明寺（東京都港区）

【財源】大賞賞金は個人による寄付、新人賞はクラウドファンディング（9月から10月15日）

2. 国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（研修・ネットワーク事業）

「研修・研究・啓発」では、計画していた3つのテーマのもとにイベント等を実施した。加えて、外部協力者との協働で、お寺の社会貢献をめぐるセミナーを対面で開催。お寺の取り組みを知るだけでなく NGO の報告も交え、お互いの役割を確認し協働の可能性を探ることができた。新規の参加者獲得にもつながった。

「ネットワーク推進」では教団関係の諸組織から講演の依頼が複数回あり、アーユスの活動を知ってもらう機会にもなった。

NGO によるキャンペーン活動にも引き続き参加し、なかでも KOREA こどもキャンペーンでは日本と朝鮮半島の歴史を学び、東アジアにおける共生社会のための人材育成を目的とする企画の実施に貢献した。

1) 研修・研究・啓発

▼2025 年度重点目標

- ・ NGO と宗教者のネットワークを生かす。
- ・ 時局に応じた内容、光の当たらない課題、暮らしや価値観への問いかけを軸に、セミナーや文字媒体での情報発信をする。
- ・ アーユスの関係者（協力先・支援者など）がつながり／共同して、それぞれの力が発揮できるよう働きかける

▼報告

（1）セミナー/勉強会/交流会

- ① 時局に応じた課題を取り上げ、現場に近い人たちや研究者などの視点を織り交ぜながら、小規模でも意義のある活動につながるよう働きかける。

「戦後 80 年」を主題にセミナーを 2 回にわたって開催。1 回目は 2025 年度から『街の灯』支援事業で協力を開始した「ピースあいち」から「経験や体験からの学び／教訓を継承すること」がこれからの平和につながる基礎を築くことになることを学んだ。2 回目は大谷栄一さん（佛教大学）とアーユス理事の中平了悟（龍谷大学）の登壇で、日本仏教界の戦争責任の捉え方を丹念にたどり、アーユス理事の「理論や教えから実践が立ちあがるのではなくて、目の前にいる人、縁から実践が立ち上がる」というメッセージが共感を

もって受け止められた。

- ② メディア的にも注目が集まりづらくなった課題で、特にアーユスがこれまで関わったものに光を当てる。

ミャンマーの大地震の活動報告会を開き、既に報道されなくなった発生後 4 ヶ月後に行うことで、改めてミャンマーへの注目を集めることができた。また「#ミャンマー軍の資金源を断て」キャンペーンとの協力のもと、紛争地において、軍を利さない人道支援の在り方についての学びを深めた。

またアフガニスタンの状況について、女性への教育の切り口から現地の声を届けた。

- ③ 社会課題を生み出す原因や社会の仕組みについてフォーカスし、改善に向けた取り組みを知り私たち自身の暮らしを振り返る機会を作る。

「仏共講座」を通じてお寺の多文化共生を巡る活動や考え方を学び、お寺がどう社会課題に取り組むかの例を紹介するアーユスならではのセミナーができた。

また「排外主義」が広がる中、『街の灯』支援事業で関わるようになった NGO の報告から、支援から取り残される在日外国人の存在とそれをとりまく制度に目を向けることができた。

●主催

開催日	タイトル/テーマ	登壇者	会場
『街の灯』支援セミナー			
2025/5/22	震災後の福島の移民女性とその子どもたちにとっての「多文化共生」	佐藤信行さん(福島移住女性支援ネットワーク) 継承語教室「つばさ」(須賀川市) / 「心ノ橋」(いわき市) / 「幸福」(郡山市) の移民女性の皆さん	オンライン
5/29	日韓の新しい未来を創造する～若者支援事業を通じて一歴史認識を共有することと対話が生まれる可能性～	シャープ・茜さん(アジア・コミュニティ・センター21)	オンライン
総会セミナー			
8/19	平和を創造するミライ世代と共に一新時代アジアピースアカデミーの挑戦～	日比野千佳さん(新時代アジアピースアカデミー)	長専院(東京都江東区) / オンライン
アユースセミナー			
7/1	ミャンマーのお坊さんに聞く サフラン革命から軍事クーデター 協力: 見樹院、メコン・ウォッチ	タワラ師(国際サフラン・アシンタワラ財団)	見樹院(東京都文京区)
8/5	ミャンマー中部地震 届く支援とは?—3団体からの報告—	日本ビルマ救援センター、パルシック、PHD 協会の各事業担当者 / 木口由香さん(メコン・ウォッチ)	オンライン
仏共講座			
7/14	お寺と NPO がともに考える多文化共生をめぐる対話 in 京都 協力: TERA Energy 株式会社	安武義修さん(西林寺、福岡市) / 坂西卓郎さん(PHD 協会、神戸市) / 池口龍法さん(龍岸寺、京都市)	ソイコレ(京都市)
2026/2/5	お寺と NPO がともに考える多文化共生をめぐる対話 in 名古屋 協力: TERA Energy 株式会社	高岡秀暢さん(徳林寺) / 波多野真帆さん(名古屋難民支援室) / 大東仁さん(圓光寺)	真宗大谷派名古屋別院(名古屋市)
戦後 80 年トークイベント			
8/28	戦争の記憶を平和の砦に—ピースあいちの取り組みに学ぶ—	宮原大輔さん(戦争と平和の資料館ピースあいち)	オンライン
9/4	戦後 80 年と日本仏教界の平和運動	大谷栄一さん(佛教大学社会学部) / 中平了悟さん(浄土真宗本願寺派西正寺、アユース、龍谷大学大学院)	オンライン
街の灯セミナー			
8/28	「ゼロプラン」と非正規滞在者～支援活動の現場から～	稲葉奈々子さん(反貧困ネットワーク)、吉田真由美さん(APFS)	オンライン
9/4	スーダン、泥沼化する戦闘下で生き抜く人々	今中航さん(日本国際ボランティアセンター)	オンライン
アユース賞新人賞クラウドファンディング関連			
	公開インタビュー2025 NGO に関わるということ 9/18 西川裕也さん(会員) 9/22 田丸敬一朗さん(元 DPI 日本会議) 10/1 水澤恵さん(国際協力 NGO センター) 10/9 高橋みづきさん(アクセプト・インターナショナル)		オンライン
10/2	いま「外国人」支援をするということ	松尾沙織さん(シェア)、松川清美さん(開発教育協会)	オンライン
2026/3/19	未来への挑戦 2025 アユース NGO 新人賞受賞者に聞く	池田織枝さん(ジェン)、大橋怜史さん(日本国際ボランティアセンター)、	オンライン

		下島舞佳さん（シャプラニール）、水原修平さん（IKUNO・多文化ふらっと）	
--	--	---------------------------------------	--

●共催

「#ミャンマー軍の資金源を断て」キャンペーン団体との共催			
4/30	緊急セミナー「ミャンマー中部大地震人々に届く支援とは」	中尾恵子さん（日本ビルマ救援センター）／キンオーンマーさん（プログレッシブ・ボイス）／チーニェインさん（ビルマのクィア・オルタナティブ）	オンライン
11/6	ミャンマー軍の見せかけの「選挙」と人びとの求める真の連邦制民主主義	キンオーンマーさん（プログレッシブ・ボイス）	連合会館（東京都千代田区）
12/15	過ちを繰り返さないために－ミャンマーの見せかけの「選挙」のリスクとは	木口由香さん（メコン・ウォッチ）	オンライン
2026/1/17	読書会「クーデターから5年『ミャンマー、優しい市民はなぜ武器を手にしたのか』から考える」		オンライン
パートナーNGO との共催			
11/27	アートにみるアフガニスタン女子教育の今～教育はわたしの翼～	小野山亮さん（平和村ユナイテッド）ほか	オンライン

（２）研修

①NGO 向け研修

NGO が抱える課題の共有、NGO の能力強化やネットワーク拡大につながる勉強会を開催する。

▼報告

研修会のかたちでは開催せず、「ソーシャルチェンジ支援事業」「『街の灯』支援事業」でアユスが目指すもの・期待することを伝えようと、NGO 支援事業説明会を２回にわたって実施した（7/29、7/31）。

②備災・防災関連

寺院の関心が高いと思われる災害関連の研修を開催する。

▼報告

実施には至らなかった。能登半島地震被災地を訪問する研修の準備を始めた。

③ジェンダー教材の活用

前年に続き、アユスも支援した開発教育協会の教材を使ったワークショップをアユスのネットワークで提案する。

▼報告

実施には至らなかった。

2) ネットワーク推進

▼2025 年度重点目標

- ・ 受けた相談の情報を蓄積する。
- ・ 相談内容を発信し、アユスの信頼度を高める。

- ・ 平和構築や気候危機など、ネットワークの中で求められる活動や運動に参加し、当事者性を高める。
- ・ 専門委員とその所属団体や仏教系グループとの連携により知恵を巡らせる

▼報告

（１）NGO・寺院・市民ネットワーク

●ネットワーク参加

①仏教 NGO ネットワーク（BNN）

定期的に企画委員会に参加。仏教系 NGO を広く知ってもらおうと、BNN 参加団体の訪問ツアーを開始。1 回目はアユス事務所が訪問先となった。

- ・ 7/2 定期講演会「近代日本における仏教教団の戦争協力」近藤俊太郎さん（本願寺史料研究所）
- ・ 12/11 年末勉強会「多文化共生と仏教」藤波大吾さん（岩手県奥州市 黒石寺住職）
- ・ 2026/2/17 BNN 参加メンバー事務所訪問（アユス事務所）

②KOREA こどもキャンペーン(RCCJ)

子ども絵画展と若手対象のフォーラムの二つを柱に活動。子ども絵画展は、国内各地域での絵画展開催をサポートしたほか、韓国のパートナー団体・オリニオックドムが主導し海外各地で展開している Drawing Hope 展に協力し、国連本部での展示会に参加した。若手向けの東アジア次世代ピースフォーラムは、国内外のフィールドツアーや隔週の学習会のほか、参加者による自主企画、海外ゲストを招聘した企画

「葛藤を越えて：希望を描く次世代の旅」を行った。

- ・ 5/3-5「次世代のための済州4・3ピースツアー」参加
- ・ 8/11-16「日・韓・在日コリアン青少年平和ワークショップ」協力
- ・ 11/10-15 Drawing Hope in NY 参加
- ・ 12/12-15「南北コリアと日本のともだち展 in さいたま」協力
- ・ 2/16-26「南北コリアとかながわのともだち展」協力
- ・ 2/19-24「葛藤を越えて：希望を描く次世代の旅」
- ・ DPRK 人道支援 NGO 連絡会／南北コリアと日本のともだち展実行委員会(4/22、5/26、7/19、9/24、12/17、1/23、3/9)
- ・ Drawing Hope ミーティング(5/13、7/3、9/11、10/24)

③#ミャンマー軍の資金源を断て

時局対応支援の枠組みで日本からの公的資金がミャンマー軍の資金源とならないよう、セミナーや要請活動を通じて働きかけた。

<要請書／プレスリリース>

- ・ 4/15「ミャンマー地震への見舞金について 一人々に届く支援に御配慮ください」(品川区長へ)
- ・ 5/14「制裁対象のミャンマー軍所有企業と関係する日本の企業、政府貿易保険機関、官民投資ファンドはミャンマーの港湾事業から責任ある撤退を」
- ・ 7/8「日本の出資者3社がシュエタンルインとの関係を断つ 日本の官民ファンド JIB はミャンマー軍のクローニー企業と関係するメディア事業からの撤退に際して透明性を確保し責任を果たすべき」
- ・ 10/6「日本政府は、軍政の見せかけの選挙の実施を止めるための国際協調をリードし、真の連邦制民主主義の確立に努力するミャンマーの人々の支援を強化してください」(石破茂内閣総理大臣、岩屋毅外務大臣あて)
- ・ 11/11「ミャンマー軍と関係するクローニー銀行との連携について日本のカード会社 JCB が沈黙。市民社会からの批判を招く」
- ・ 3/24 「日本の金融企業はミャンマー軍政を利する事業を終了させるべき」

<アクション>

- ・ 4/1 ミャンマー軍のフェイク選挙に「NO!」を日本政府に明確な意思表示を求めます(官邸前)
- ・ 6/2 ミャンマー軍を利する日本の官民ファンドの事業を止めて! 日本政府は責任ある撤退と説明を(官邸前)
- ・ 9/1 日本政府はミャンマー軍のもくろむインチキ選挙に NO! を(官邸前)
- ・ 10/6 日本政府は軍政の見せかけの選挙実施 Stop を! 真の連邦制民主主義の確立に努力するミャン

マーの人びとの支援を強化してください(外務省前)

- ・ 12/1 新内閣にもお伝えしますーミャンマー軍の見せかけの「選挙」による非合法軍政ロンダリングに NO を! (官邸前)
- ・ 2026/1/30 クーデターから 5 年ー新政権はミャンマー軍の偽りの民政化を認めず民主主義を守る側に立ってください! (官邸前)

④パレスチナ

時局対応支援の中で他団体と連携して、パレスチナ・ガザ地区／西岸地区の状況が改善するよう、アドボカシーや要請活動を行った。

<イベント>

- ・ 10/4「停戦を、食料を、今すぐに NGOからの報告会、キャンドルアクション」(主催:「停戦を、食料を、今すぐに」実行委員会)

<要請書／プレスリリース>

- ・ 9/29 NGO 共同声明「停戦を、食料を、今すぐに」(「停戦を、食料を、今すぐに」実行委員会)

<声明>

- ・ 8/28 ガザ地区における「飢饉」の発生に関する声明(パレスチナの平和を求める実行委員会)

●委員などで参加

浄土宗ともいき財団(選考委員)、浄土宗平和協会(専門委員)、全日本仏教会国際交流審議委員会(委員)、築地本願寺新報(編集委員)、庭野平和財団(平和奨励賞選考委員)、リタアセット財団(評議員)

(2) 交流

①月間メッセージの発信

メールマガジンを通じ、毎月アーユスとしてのメッセージを発信した。

②専門委員の参加促進／専門委員のつどい

セミナー等のファシリテートやコメントに登壇いただいたほか、情報提供をいただきメールマガジンなどで紹介した。

専門委員のつどいは、ソーシャルチェンジ支援でアーユスが大切にすべきポイントについて確認できる場となった。

- ・ 1/31 専門委員の集い

登壇者: 石川えりさん(難民支援協会)、郭辰雄さん(コリア NGO センター) / 進行: 神田浩史(泉京・垂井、アーユス理事)

④ 交流会/定例会

東京での総会セミナー、アーユス賞授賞式のほか、関西・東海でのセミナーなど対面企画の開催時に会

員・支援者・NGO が同席できるよう努めた。寺院や NGO 訪問もおこない、個別の対面の機会をつくった。

(3) 寺院／地域との協働

①お寺という場の活用

活用実績はつくれなかった。

②総会など関係者の集まる場・寺市への参加

- ・ はなまつり 八王子市仏教会 (4/3、@桑都テラス、八王子市)
- ・ 新倉山浅間公園桜まつり 正福寺その他 (4/6、@富士吉田市)
- ・ 泉福寺 日フィル平和コンサート 泉福寺 (4/20、@泉福寺、東京都江戸川区)
- ・ 総会報告 八王子市仏教会 (5/19、@八王子エルシィ 八王子市) / 浄土真宗本願寺派東京教区仏教婦人会連盟 (5/28、@築地本願寺、東京都中央区)
- ・ いのり題目の日 日蓮宗東京西部宗務所 (10/28、@妙法寺、東京都杉並区)
- ・ 成道会バザー 浄土真宗本願寺派東京教区青年僧侶協議会 (12/8、@築地本願寺、東京都中央区)
- ・ 成道会チャリティーのタベ 東京ブディストクラブ (12/12、@帝国ホテル、東京都千代田区)
- ・ ねはんえの集い 八王子市仏教会 (2/18@いちょうホール)

④ 自然災害の際の連携

北海道・青森地震に際して、青森の寺院に状況を問い合わせるなどしたが、連携/支援は行わなかった。

⑤ 寄付品受付・バザーの実施

「物でお布施」は寺院に勧めやすい参加方法として推進し、「物でお布施」チラシの配布に 6 カ寺の協力を得た。切手・テレカなどの寄付は 61 件 (のべ 17 カ寺含む) と、お寺からの呼びかけで新たに参加される方もおり、地道に広がっている。物品(主にバザー品)寄付はのべ 15 カ寺と限られたが、バザー時に集中して呼び掛け多くのものをご提供いただいた。

3) 開発教育事業

(1) ニュースレター

年次報告書を発行。ニュースレターの代わりに、年次報告書の発行時、年始の「物でお布施」呼びかけ時に半期報告を送付した。

(2) 施本

定期利用者は増えておらず、扱う部数も減っているが、不定期の利用がある。

4) 普及事業

(1) グッズ販売

前年同様寺院だけでなく個人向けにも広報し、細かな販売にはつながっている。

(2) 出版

実施せず

(3) 執筆・講演

月日	テーマ	派遣先／掲載先	派遣者／執筆者
10/16	「日本の仏教界のジェンダー」	慶応大学留学生	枝木・瀬野
12/11	ボランティア学入門[国交のない国と繋がる市民活動]	明治学院大学	寺西
2/18	鎌倉組研修「今なぜガザなのか？」	浄土真宗本願寺派鎌倉組	枝木
2/19	教学高等講習会「現代の紛争と宗教」	浄土宗	枝木
3/3	一日研修会「災害・戦争・・・私たちにできること？」	浄土真宗本願寺派東京教区仏教婦人会連盟	枝木

その他

- ・ 築地新報編集委員 (枝木)

3 組織運営・広報

1) 組織運営

▼2025 年度重点目標

①ボランティア受け入れ、およびインターンシップ制度の整備

②事務局と役員との協働体制

- ・ ソーシャルチェンジ／街の灯事業への助言
- ・ Vision/Mission/Value の確定

- ・ 年間ファンドレイジングの実施
- ・ 2025 中期計画策定準備
- ③通常の総務・会計の確実な遂行と引き継ぎ
- ④認定更新作業の準備

▼報告

- ・ インターンシップは早稲田大学との連携で募集を行ったが、応募はなかった。
- ・ 事務局と役員との協働体制づくりの前に、事務局内での業務分担、協力体制を進めている。
- ・ 理事とのワークショップを行い、今後の方向性について検討し、現行の事業は継続し、それを維持できるための資金力をつけることになった。それに向けて、事務局で取り組みを進め始めた。
- ・ 認定更新の申請を行い 11 月に承認がおりた。
- ・ 会員総会
 - 開催日：2025 年 6 月 17 日（火）
 - 会場：長専院（東京都江東区）＋オンライン
 - 議案：
 - 第一号議案 2024 年度事業報告・決算案
 - 第二号議案 2025 年度事業計画・予算案
 - その他 報告
- ・ 理事会 以下の通り滞りなく開催された
 - 第 1 回：5 月 20 日
 - 第一号議案 2024 年度事業報告・決算案
 - 第二号議案 2025 年度事業計画・予算案
 - 第三号議案 2025-2027 年度専門委員委嘱について
 - その他
 - 第 2 回：9 月 26 日
 - 第一号議案 アーユス NGO 大賞及び特別功労賞の受賞者決定
 - 第二号議案 役員ワークショップ振り返りと今後について
 - その他（クラウドファンディング、年末に向けた FR のご相談など）
 - 第 3 回：11 月 26 日
 - 第一号議案 2026 年度 NGO ソーシャルチェンジ支援事業選考
 - 第二号議案 2025 年度アーユス NGO 新人賞選考
 - 第三号議案 2025 年度中間事業報告と中間決算報告
 - 第 4 回：1 月 28 日
 - 第一号議案 2026 年度『街の灯』支援事業の対象先決定
 - 第二号議案 謝金・会場費規定の制定
 - 第三号議案 就業規則の改定に向けて
 - その他
 - 第 5 回：3 月 23 日
 - 第一号議案 2026 年度ソーシャルチェンジ支援事業の継続支援申請審査

- 第二号議案 2026 年度『街の灯』支援事業の継続支援申請審査
- 第三号議案 就業規則の改定案
- 第四号議案 2026 年度事業計画・予算案
- 第五号議案 中東情勢について
- その他

2) 広報／ファンドレイジング／支援者対応

①年間最低 3000 万円の安定した収入基盤ができる

▼報告

- ・ アーユス NGO 新人賞のためのクラウドファンディングを実施し、1,278,000 円（過去最高）が集まった。
- ・ 募金の呼びかけは年度初めの「ミャンマー緊急募金」と夏のクラウドファンディングと年末の『街の灯』募金を実施。
- ・ 「物でお布施」の件数は減少しているが（24 年度 158 件→25 年度 119 件）、金額は切手・ハガキの寄付がほぼ半減したものの貴金属の寄付があり増えた（24 年度 64.7 万円→25 年度 84.7 万円）。
- ・ バザーは 2 回開催し、金額は平年並み（24 年度 24.3 万円→25 年度 23.3 万円）。
- ・ 会員寺院や法人寄付に対し、檀家さんなどにも活動や意義が伝わるよう、感謝状や報告書をお送りした。
- ・ ウェブサイトの見直しを開始。
- ・ 支援者訪問を開始。

②新規協力者が増える

▼報告

- ・ アーユスへの協力方法を整理し、チラシは講演会等で配布した。
- ・ 従来よりご支援くださっている寺院から檀家さんあてに募金の振込用紙を同梱くださり、そこから 17 名の新規寄付者が生まれた。
- ・ イベント開催時に集客サイトの Peatix を利用し、参加申込時に寄付もできる仕組みを活用した。少数ながら毎回新規の寄付者が生まれている。

③一般市民のアーユスの活動への参加者が増える

▼報告

- ・ イベント／セミナーの参加者には既に様々な媒体から情報が伝わっていることがわかり、データベースに一元化する必要がないと判断した。
- ・ Salesforce を活用していきたいが、現時点では難しい。
- ・ イベント参加者など接点があった人たちには、メールマガジン登録の呼びかけを継続。フォローアップのメールは送付。
- ・ 「物でお布施」の参加者に寄付の呼びかけを行な

い、2 件の新規寄付につながった。

④法人支援者が増える

▼報告

- ・既存の法人支援者の訪問から始めている。

⑤その他

- ・ウェブサイトでのわかりやすい団体／事業紹介（スマホ対応、寄付サイトへの導線づくり、NGO の申請情報の一覧化など）

▼報告

- ・サイトの課題や状況の整理を行うことができた。全体の構成の見直しが必要だが、それが完成するまでの間として、講師派遣や物品寄付ページなど、力を入れたいページをアップデートした。

決算報告（決算資料参照）

- ・当期正味財産増減額は、-3,674,952 円
- ・正味財産のうち使途が決まっている寄付が約 630 万円
- ・緊急募金はミャンマー中部地震対応で行った

- ・マンスリーサポーター「結募金」参加者
：2026 年 3 月末現在 40 人

- ・寄付内訳（2026 年 3 月末現在）

	2025 年度
--	---------

一般寄付	¥9,508,307
うち物資からの換金（注 1）	(¥847,210)
結募金	¥1,163,000
指定：パレスチナ（注 2）	¥76,422
指定：ウクライナ（注 2）	¥14,000
指定：ミャンマー（注 2）	¥2,382,155
指定：能登半島地震（注 2）	¥62,435
指定：カンボジア（注 2）	¥100,000
新人賞	¥1,278,000
合計	¥14,584,319
物資	33 件

注 1：換金元の物資は、主に切手、葉書、書籍や貴金属を含むその他物品

注 2：指定寄付の金額は 15%の管理費との按分前

会員状況（2026 年 3 月末現在）

特別賛助会員 24人
法人会員 48人
賛助会員 3人
個人会員 175人
学生 1人

合計 251 人